

社民フォーラムの存在を示した2023統一自治体選挙

＝ 県社民フォーラム第3回役員会開催 ＝

県社民フォーラムは、12月9日、第3回役員会を開催し、県議選の中間総括と当面の取組を意思統一しました。

一、第20回県議会選挙中間総括（抜粋）

県社民フォーラムとしてはじめての選挙でありましたが、少数激戦と政治不信（無関心）の中での闘いでしたが、多くの困難を乗り越え会員の努力により「社民フォーラム」の存在を示すことが出来、多くの選対から感謝されました。

岸田内閣は、内閣発足後最低の支持率が更新され政権運営が不安定の中での県議会選挙でありました。

中央の影響は、地方にも表れ自民党は単独過半数を取ることが出来ませんでした。その受け皿となる反自民会派「県民連合」も現状維持に終わってしまいました。その反面「維新」「れいわ」の議席が誕生しました。

立憲民主党が反自民の受け皿となるには何が必要なのか、必ず来る「解散・総選挙」に向け体制づくりをするために議論を深めていきます。

1、取組みはどうであったか

2023年統一市町村選挙は、社民フォーラムは、主体的に闘うことを意思統一し、社民フォーラム所属候補者全員当選をめざしてきましたが、市議会選挙 2 人の現職を落選させてしまいました。これらの教訓から県議会選挙では、絶対に負けられないとして福島市選挙区への全県紹介者の取組を行ってきました。各地区からの紹介者は、多くはありませんでしたが、県職労では、全県動員で県職関係者への家庭オグを行なって来ました。市町村議員の支持者名簿を活用しての親書発送などを行ってきました。

福島市選挙区は、当初現職からの新人への引継ぎや知名度など大変厳しい状況でしたが関係者の努力により前回並みの体制を取ることができました。特に半沢候補の1万件を超える接見と「医療・福祉・教育」を柱とした6大政策を訴え「37歳の若さと行動力」「地元からの支援と期待」「街頭活動」などにより今までにない票を獲得しました。「労働組合・団体」「地元」「社民フォーラム」の結末の勝利であります。

会津若松市選挙区は、宮下雅志後援会と立憲民主党（社民フォーラム）合同で選対をつくり選対本部長に小川代表（社民フォーラム）が就任し、週一回（土）の事務局会議を開催し、活動してきました。

社民フォーラムは、立憲民主党支持労組・団体の選対を結成し具体的な取組を要請してきました。宮下選対の新たな票として、社民フォーラム所属市議支持者への親書・選挙はがきや接見、退職者団体会員オグなど行なって来ました。結果は、4位当選でしたが、現職議員（3人）が1,500～3,000減票する中で宮下候補は、60票の減票に抑え込むことが出来き、当選できたのは、社民フォーラムが入ったからと評価を得ています。この選挙は、後援会の個々人と社民フォーラムの組織的な活動の結果であります。

各地区の社民フォーラムは、組織的な活動を行ない、立憲民主党公認・推薦候補者に当選に大きく貢献し社民フォーラムの存在を示した闘いでした。

2、課題と方向性

- ①立憲民主党公認の選挙をしましたが主体は後援会選挙で立憲民主党は戦力の一部で、党組織での選挙が不十分でした。
- ②選対の課題としては、選対本部長、事務局長、幹事長などの役職があるが統括（責任者）する人が誰なのかははっきりさせることが必要です。
- ③現職の選挙への参加は、非常に弱く、特に今回の告示日は平日であったために休みを取っての参加は少なく、社民フォーラムとしての要請が充分達成できませんでした。
- ④投票率の低下は、要因の多くは政治不信がもたらしたもの多いが、「生活と政治」「仕事と政治」など身近なものとして広めきれていないことにあります。政治に関心を持たせる努力が必要になっていきますので、本気になって活動家づくり（次代を担う）を行わなければなりません。特に、社民フォーラムの会員拡大に全力をかけることにあります。
- ⑤4年後の候補者づくり（後継者）を今から議論し2025年12月までに候補者を決定できるようにしなければなりません。

⑥社民フォーラムは、立憲民主党と労働組合・支持団体との支持協力関係をつくり、「護憲・平和」「労働者」の党になるように組織的に働きかけることをしなければなりません。そのためには、立憲民主党に入党し影響力を強める必要があります。

⑦解散総選挙が行われる可能性はまだ残っています。解散総選挙に向けた準備が必要です。特に今回は、選挙区が一つ減になり4選挙区になりましたので各地区での体制づくりが必要です。



衆議院小選挙区新区割り

- 第一区：福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
- 第二区：郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
- 第三区：会津若松市、白河市、喜多方市、南会津郡、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、西白河郡東白川郡
- 第四区：いわき市、相馬市、南相馬市、双葉郡、相馬郡

社民フォーラムを強く大きくし立憲民主党を支えよう！

課題と方向性でも明らかになったように、立憲民主党への影響力を強め「護憲・平和」「労働者」の党へ導いて行くには、社民フォーラムの会員を拡大し、入党することです。その為には、組織・財政の強化が必要です。

1、財政検討委員会の開催

アンケートの集約

2、総会までの拡大目標

福島(10) 郡山(3) 安達(1) 須賀川(2)
白河(2) 会津若松(5) 耶麻喜多方(2)
南会津(2) 地区外(3) 計30

①自治体選挙で多くの仲間と共に活動しましたのでピックアップし拡大運動をして行きます。特に現職組合員へ働きかけてください。

②学習会(講演会、講座制学習会) 政策研究会、労働組合との交流会など工夫を凝らしてお願いします。



戦争反対！憲法を活かそう！

第19回憲法をいかにする県民の会総会

日時：2月10日(土) 13:15~15:30

場所：福島県青少年会館

内容：総会と講演会

演題「憲法を巡る情勢と課題」

講師「高橋哲哉」(代表世話人)

憲法改悪の動きが早まっています、衆議院憲法審議会は週一回行われ、特に自民党・公明党の政府与党に加え、維新の会が積極的になっており、最近では国民民主党も加わって審議事項の採択を強行しようとしています。

岸田内閣は、敵地攻撃や武器輸出三原則の緩和、防衛費倍増など国会審議もせずに「閣議決定」で決めなど憲法を否定しています。

原発のない福島を！県民大集会

日時：3月16日(日) 13:00~15:00

場所：パルセいいざか

内容：講演と福島からの発信

原発事故が発生してから13年を迎えますが未だに収束の目途がたっていません。

8月24日には「関係者の理解なしにはいかなる処分もしない」とした約束を破り「ALPS 処理水」を海洋放出しました。「海洋放出後」は「放出反対は、風評被害を煽っている」などバッシングがされ大衆的な運動が非常に困難になっています。漁業関係者は、「不安や風評被害が発生せず本県漁業・水産業が阻害されず着実に進展していけると云うことに確信が持てるまでは海洋放出に反対していく」と表明しています。